

## 親が木から下いる

「親」という漢字は『木の上に立って見る』と書きます。「親は木の上に立って心配しながら子どもを見守っているから親なのです」とよく耳にします。

本来の漢字の由来とは異なりますが、子どもを教育するうえで、教訓となることばです。

しかし、時代や環境の変化に伴い、近年、教える立場の親が、教わる側の子どもに対して、干渉し過ぎる傾向があります。親は子どものためにと思ってしていることが、結果として子どものためになっていないことが多いのです。目線を合わせることは大切ですが、時に一歩下がって見守ることで、子どもは自分で考え、決断して行動することを学ぶのです。

社会人ならなおさらです。若手社員には、ある程度でいいに教える必要があるでしょうが、その後は、上司は心配でも一歩下がって任せるという教育方法にシフトしていく必要があります。

「獅子は我が子を千尋の谷に突き落とす」「可愛い子には旅をさせよ」などのことわざがあります。本当の親心とは、守ってあげたいという思いを抑え、あえて試練を与えることなのです。

### 愛のある厳しさが必要です

(コミニケ出版：月刊朝礼2015. 11月号より)

「親になることは容易であるが、親であることは容易ではない。」深いことばです。

子どもを育てる場合の、親としての適切な関わり方はいつの時代も難しいものです。放任でもいいけないし、過干渉でもいいけない。分かってはいても……。そこに親になってからも学び続けることが必要なのでしょうか。私も日々勉強中です^^;

## モデリング理論

子どもたちの成長の過程を見るときに、モデリング理論を知る必要があります。モデリング理論といっても難しいものではありません。物まねをして成長する、できるようになるというだけです。しかし、良い行い、振る舞いを真似する成長ならいいのですが、悪いことも学習してしまいます。真似しようと思わなくても自然に体に染みついてそうになってしまうことがあります。「朱に交われば赤くなる」ということわざがありますが、この「朱」が良いことか、悪いことが問題です。悪ければ悪く育ち、優しさがあれば優しく育つことでしょう。自分になりたい、目標となる人との生活であればそれに近づきます。

子どもたちを見ていると、周りの大人が見えるような気になることもあります。逆に、目標となる人を定めてその人に近づきたいと努力している子どもは、かなりしっかりしているような気がします。自分の子どもの周りには、どのようなモデルになる環境があるのでしょうか。

「地域」「学校」「保護者」すべてが子どもたちにとっての環境です。一体となって子どもたちの成長を見守るような環境でありたいと思います。  
「環境が人をつくる。その環境は人がつくる。」

